

Market Flash

発表日: 2019年11月27日(水)

頼れる海外経済②

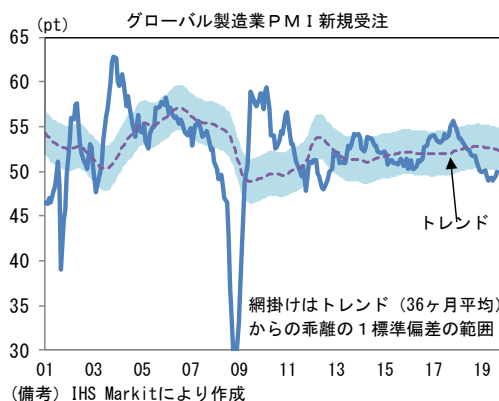
～一足お先に好転～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL: 03-5221-4523)

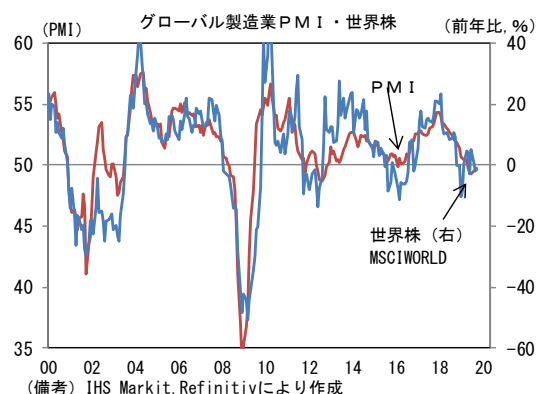
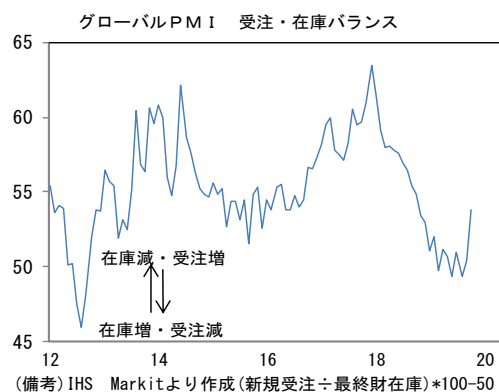
- ・ 日経平均は底堅い企業業績を背景に、先行き12ヶ月は24000近傍で推移しよう。
- ・ USD/JPYは日米金融政策が様子見となる下、先行き12ヶ月は105程度で推移しよう。
- ・ 日銀は現在のYCCを長期にわたって維持するだろう。
- ・ FEDは予防的利下げを実施後、更なる利下げを検討するだろう。

< #製造業PMI #新規受注 #在庫 #バランス好転 >

- ・ 昨日の当レポートでは11月の米製造業PMI、ドイツを中心にユーロ圏製造業PMIが改善したことを引き合いに海外経済が持ち直しつつあることを示した。11月のグローバル製造業PMIは現時点で未発表も、中国が急激に落ち込むなど突発的な事態に見舞われない限り50を回復する可能性が高い。景気回復を象徴するデータになることが期待される。
- ・ グローバル製造業PMIのヘッドラインは10月時点で49.8へと3ヶ月連続で改善しているが、先行指標として有用な「新規受注」は一足先に50.0を回復している(6ヶ月ぶり)。トレンドからの乖離をみても1標準偏差内(網掛け部分)のレンジに収束する動きとなっており、19年前半にみられた製造業リセッションからの立ち直りが映し出されている。スーパーサイクルとも称されたIT関連財の需要増加が一巡したところにタイミング悪く米中貿易戦争が勃発し、世界的に企業支出が抑制されたのが今回の下振れの主背景だが、今やIT関連財の在庫は減少に転じ、米中貿易戦争は和解に向けて歩み始めたように見える。ちなみにトレンドからの乖離が1標準偏差下限を突破したのは欧州債務問題の緊張がピークに達し、米国ではQE3発動が議論されていた2012年夏以来であった。



- ・より優れた先行指標としては、グローバル製造業PMIのサブ項目を用いて作成した新規受注・在庫バランスがある。この数値は4-6月期にボトムを付けた後しばらく停滞していたが、9月と10月に大幅な改善を遂げ、11月分も同水準を維持する見込み。既発表の米国、ユーロ圏、英国、日本のPMIは在庫が区々も、新規受注は何れも増加していた。グローバル製造業PMIは速報性と予測精度に優れた数少ない指標で市場関係者の注目も高い。それゆえアナリストの業績予想や株価とも一定の連動性を有する。



【株式市場・アジアオセアニア経済指標】

- ・日本株は米中通商交渉への期待が継続する下、米国株上昇に追随。日経平均株価は23400円を回復(11:00)。

【海外株式市場・外国為替相場・債券市場他】

- ・前日の米国株は続伸。米中通商交渉の進展期待が膨らんだ。WTI原油は58.01ドル(+0.24ドル)。
- ・前日のG10通貨はSEKが堅調だったほか、ロウRBA総裁が量的緩和に否定的な見解を示したことを受けAUDが堅調。USD/JPYは小幅に水準を切り上げ109を回復。EUR/USDは1.10前半でもみ合い。
- ・前日の米10年金利は1.741%(▲1.4bp)で引け。堅調な株式市場を横目に月末需要などからカーブ全体で金利低下。欧州債市場(10年)はドイツ(▲0.372%、▲2.3bp)、フランス、スペインが金利低下。イタリアが概ね横ばい。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

